

ベトナム訪問記録

- 訪問は、ベトナム共産党と民進党との間における正式な党間交流の一環として実現しました。政府間以外の政治レベルの交流は、相手国の政治体制に応じて、どのような手段が最も効果的であるかが違ってきます。ベトナムのような一党支配の国では、議員間交流以上に、政党間交流が重要な意味を持ちます。
- ベトナム共産党とは、民主党時代の 2015 年に政党間交流の覚書を交わし、これに基づくハイレベル訪問が要請されていました。しかし、民進党の結成や参議院選挙などで時間が確保できず、今回の訪問が相互訪問の第一回となりました。
- 訪問団は、私枝野を団長に、日本におけるベトナムフェスティバルを 10 年前にスタートさせ、現在もその実行委員会事務局長を務めるなど、国会議員の中でも 1、2 を争うベトナム通である青柳陽一郎衆議院議員と、ILO(国際労働機構)にも勤務経験がある国際派の労働政策専門家である石橋通宏参議院議員という 3 人の議員に加え、党国際局職員 2 名の 5 名で編成されました。私は、政党間交流の覚書を締結した時の幹事長であるのに加え、経済産業大臣在任中も ASEAN(東南アジア諸国連合)との通商関係、中でもミャンマーとベトナムを特に重視した通商外交を展開した経験もあり、団長を務めることになりました。
- 今回の訪問は、5 月 28 日の日曜日に日本を発ち、31 日水曜日に帰国する 3 泊 4 日の日程でした。往復とも羽田空港発着便の 787 最新鋭機で、この点では便利になっています。
- 初日の 28 日は、午前便で昼過ぎにハノイに着き、相手方も日曜日ですので、午後は市内視察に当てました。地元の人たちが集う市場や、最も高級といわれる百貨店を相次いで視察し、格差を含めた庶民生活の一端に触れる機会を得ました。
- 29 日がメインの日程で、ベトナム共産党対外委員会の副委員長、次のトップ候補ともいわれている政治局員、国会議長、商工会議所副会長などと会談しました。当方からは、「日越関係では、経済協力と安全保障分野が重要であり、この点については、自民党も民進党も差異なく重視していること。それに加えて、民進党は、草の根レベルからの相互の親近感と、それに支えられた信頼関係の深化こそが重要であると考えていること。その象徴と

して、ベトナムから日本に来る技能実習生や留学生の人権や労働環境をしっかり守ることに努力していること。」などを伝えました。ベトナム側からは、特に、人材育成に関する日本の協力への期待が示されました。

- 29日の隙間の時間にイオンモールを、30日の午前にはTOTOを、それぞれ訪問し、ベトナム進出企業の抱える課題について意見交換しました。それぞれの企業秘密にも関わると思うので詳細は触れませんが、共通して、優秀な人材を安定的に確保することに苦労していると感じました。また、30日の午前には、ベトナム労働組合総連合の副議長とも意見交換しました。
- 首都だけでは見えないものもあるとの思いから、30日の午後は、ベトナム第三の都市として、日本からの投資も、観光客も増えているダナンを訪ねました。ベトナム共産党ダナン市委員会の事務所を訪ね、幹部の皆さんと意見交換しました。先方からは、日本からのさらなる投資、特に裾野産業につながる中小企業の進出に関する期待が示されました。
- ダナンは、東南アジア有数の海岸リゾート地でもあり、率直に言うと、次は観光で来たいものだと感じました。ダナンから30kmほどのところに、通称「日本橋」と呼ばれる橋など、古い建物が残る世界遺産都市のホイアンがあり、夜景がきれいな場所だということで、30日のすべての要件がすんだあと、駆け足で見てきました。ダナンを起点に、このホイアンなど周辺には観光資産が多く、日本からの観光客も期待されています。まだインフラ整備の途中ですが、日本人にとって魅力的な観光地であると感じました。
- そして、31日にダナンからハノイ乗り継ぎで帰国という訪問でした。ベトナムは、食事も美味しく、平均年齢の若い活力ある国です。親日的である上に、経済的にも地政学的にも、日本にとって大変重要な国です。今回の訪問で、このことをさらに確信しました。ベトナム側の要人と人間関係を深めることができましたので、これを活かして、対ベトナムの外交通商政策に、さらに関わっていきたいと思っています。

枝野幸男